

おもしろ  
インタビュー

まつ ちと ぐ りゆう  
松本 雅隆さん



ロバハウスには数えきれない程たくさんの楽器が置いてあります

た。音大に入ったものの壁にぶつかり、どんな音楽がやりたいのか迷っていた時に、大学の楽器博物館で偶然、クルムホルン(傘の柄の形をした木製の笛)を見つけたんです。どうしても吹いてみたくなって、博物館の人に頼み込み、その場で吹いてみたんです。音色を聞いて「これだ、見つけた!」と。宝物を探し当てた気分でした。

☆古楽器の魅力は?

古楽器の魅力は、写真を頼りに、ヨーロッパや東の国々を訪ね歩くんです。この楽器知りませんか?」って。楽器工房に頼んで、3年かけて復元してもらうこともあります。そうやって少しずつ集めていく。簡単にはたどりつけない

耳澄ませ 心にしみる音楽を

☆古楽器との出会いを教えてください。

★自然豊かな所で育ち、昔から虫の鳴き声や木々のそよぐ音など素朴な音の世界が好きでした。

☆木製の楽器が多いせいか「森の音」がするんです。安心感があってどこか懐かしい。それに中世の音楽は、今のよう大人、子ども向けに分かれてい

なくて万人のものでした。

☆演奏に使う楽器は見たことのないものばかり。どうやって手に入れるのですか。

★古い文献にある楽器の絵や写真を頼りに、ヨーロッパや東の国々を訪ね歩くんです。この楽器知りませんか?」って。

☆「子どもたちと音楽を共有したい」という思いからロバの音楽座を立ち上げましたが、古楽器なんてみんな知らないから、幼稚園に売り込みに行っても門前払い(笑い)。でも、子どもたちは先入観を持たず、五感を澄ませて聴いてくれました。

☆バケツやアルミ缶などで作った「空想楽器」も登場します。

☆身近なもので作った楽器で「らくがき」するような自由な音楽。そして人の心にしみるような温かい音楽ですね。ロバの歩みはゆっくりですが、大きな耳を澄ませて、これからも夢のある音楽を届けたいです。



バグパイプやクルムホルン、巨大な蛇の形をした吹奏楽器セルバン、不思議な音色を奏する弦楽器ハーディーガーディー……。見慣れない中世の古楽器で、ファンタジックで温かみのある音楽を紡ぎ続けている「ロバの音楽座」。東京・立川のロバハウスを拠点にした活動は来年で30年を迎えます。大人も子どもも魅了してきたロバの歩みをリーダーの松本雅隆さんに聞きました。

「上東麻子」

からこそ面白いですね。☆活動を始めたころの反応は?

★「子どもたちと音楽を共有したい」という思いからロバの音楽座を立ち上げましたが、古楽器なんてみんな知らないから、幼稚園に売り込みに行っても門前払い(笑い)。でも、子どもたちは先入観を持たず、五感を澄ませて聴いてくれました。



ロバの音楽座のメンバー。みなさんロバのようにのんびりした方が多いとか=ロバの音楽座提供

◇プロフィール◇ 松本雅隆さん 1952年、福岡県生まれ。国立音楽大学卒。73年、中世・ルネサンス音楽を演奏する「カテリーナ古楽合奏団」を、82年にロバの音楽座を結成。アニメ「パンツばんくろう」、NHK「からだであそぼ」、スタジオジブリ「ゲド戦記」などの音楽を手がける。谷川俊太郎さんや山下洋輔さんとのジョイントライブも。2009年にキッズデザイン賞・創造教育デザイン部門金賞、10年、「らくがきプロビビのコンサート」が厚生労働省児童福祉文化賞推奨作品に選ばれる。

「リアルコンストラクション スターターワークショップ」(発売中、タカラトミーアーツ、2100円) 本物に似た新開発木材「キッドウッド」を使って、クギやネジを打ち、組み立てるといった本格的な木工工作が体験できます。中に入っている設計図にそって工作すると、飛行機や家、ロボットなどが簡単に作れます。



©2010 JAKKS